

団体名： 宮津与謝消防組合

(千円)								
No	事業種別	分野	事業名	事業の概要	事業費 (実績額)	交付金 充当額	事業の実施状況 (主な実績等)	自己評価 (事業の効果等)
1	市町村間連携 推進事業	防災	指揮車整備事業	【事業の目的】 災害現場全体の総合的な統括を行う指揮隊が、安全で円滑な指揮体制を確保し、効率的な部隊活動を展開するために必要となる車両及び資機材の充実強化を図る。 【事業の内容】 ・第5次宮津与謝消防組合基本計画に基づき、本署の指揮車1台を更新 ・指揮体制の強化に必要な最新の資機材を整備	16,500	5,432	・指揮車は、収納力が高く、隊員が車内で活動しやすいワンボックスタイプに更新 ・災害や被害の実態を効率的に収集できるタブレット（映像配信システム）、迅速に指揮所が設定できるストレッチャー式指揮台など、最新の資機材を整備し指揮車に積載	新型車両は、高機能のLED型赤色警光灯を搭載し、外装には再帰性の富んだ反射材を多く使用したことで視認性を高め、車両活動中の安全性の向上を図ることができた。 映像配信システムを構築したことで、現場本部から死角となる場所をタブレットで撮影、その映像を指揮車のモニターや簡易指令室に伝送することができる。その映像を可視化し、早期に災害全容の把握、部隊増強の判断及び活動方針の決定に役立てるほか、映像を記録し若い隊員への検証に利用するなど、知識・技術の伝承にも活用が期待できる。
2	市町村間連携 推進事業	災害・犯罪からの 安全	災害・予防活動整備事業	【事業の目的】 全国各地で多くの人的・物的被害が生じている中、引き続き住民が安心して暮らせるよう、減災対策の推進や救命救急の高度化など、消防防災体制の一層の充実強化を図る。 【事業の内容】 ・消防力の維持・強化となる資機材の整備 ・広報等による火災予防や応急手当普及活動の推進 ・特殊災害等の対応に必要な専門的知識や技術の習得 ・職員の感染防止対策の徹底	9,075	2,925	・モバイルデータ通信網を使用するIP無線機を16台整備 ・橋北分署救急車のAED1台更新 ・住民の安全・安心につながる情報発信_広報誌32,000部・チラシ16,000枚各戸配布 ・応急手当の普及啓発活動を実施 CPR訓練人形5体購入・応急手当テキスト1,000部及び救急啓蒙品50個配布 ・専門的知識や技術を習得する資格取得講習を受講_延べ4人	IP無線機の整備により、消防救急デジタル無線基地局の位置により生じている不感地帯をカバーすることができた。 応急手当の普及活動では、乳幼児の保護者や小中高生など受講対象者の幅を広げるなどの取組みにより、救急講習は111回、延べ1,793人が受講するなど、前年度から大幅に増加した。特に10代の受講者が過去最多人数となるなど、若い世代に対し救命の連鎖を伝えることができた。
3	市町村間連携 推進事業	災害・犯罪からの 安全	救急救命士養成等事業	【事業の目的】 救急救命士が実施する救急活動を高度なものにするとともに、質の高い救急隊員を育成し、傷病者の救命率向上や後遺症の軽減等につなげる。 【事業の内容】 ・救急救命士就業中病院研修 ・救急救命士資格取得後病院研修 ・ビデオ喉頭鏡気管挿管実習 ・気管挿管病院実習 ・救急ワークステーション研修	1,361	415	・就業中病院研修を実施_21人 ・資格取得後病院研修を実施_1人（丹後MC協議会により認定登録） ・ビデオ喉頭鏡気管挿管実習を受講_2人（丹後MC協議会により認定登録） ・気管挿管病院実習を受講_1人（丹後MC協議会により認定登録） ・救急ワークステーション研修を年間を通じて実施_66回 延べ198人	令和5年中の救急件数は、前年比97件増の2,430件で過去最多件数を更新、さらに熱中症の搬送人員は統計開始以来最多となった。また、搬送人員の実に76%が65歳以上の高齢者で、高齢化率が高い当地域特有の結果となった。このような救急業務の逼迫が顕著となった中でも、救急研修や実習を継続して行うことで、より質の高い救急活動を迅速かつ的確に実施することができた。さらに、効率的な救急体制を維持したことで、研修等を積んだ救急救命士の救急車乗車率は100%を達成することができた。
4	市町村間連携 推進事業	防災	防災拠点施設備蓄品購入 事業	【事業の目的】 宮津与謝消防組合防災備蓄品整備計画に基づき、宮津与謝消防組合を構成している宮津市・伊根町・与謝野町と連携して、必要な物資等を共同備蓄品として購入し、大規模災害に備える。 【事業の内容】 防災備蓄品の整備（①アルファ米 ②飲料水 ③災害用毛布 ④スベア便座 ⑤トイレ用脱臭剤 ⑥燃料）	1,625	534	備蓄品 整備目標 現有数 整備数 ① 15,750食 11,800食 3,150食 ② 3,960本 2,670本 330本 ③ 3,920枚 2,820枚 200枚 ④ 23,500袋 16,390袋 1,400袋 ⑤ 1,960本 1,230本 130本 ⑥備蓄燃料のガソリン、軽油、灯油は年度末に昨年度と入替した。	備蓄品を使用するような大規模災害は発生していないものの、地域住民の負託に応え、「安全・安心な社会」を構築するため、整備目標に向け着実に購入することができた。また、保存期限間近の備蓄品は、構成市町や当消防組合が主催した防災イベント等の参加者に提供するなど、貴重な資源を有効に再利用することができた。